

地域再生計画

1. 地域再生計画主体の名称

長岡京市

2. 地域再生計画の名称

歴史文化都市長岡京創生計画

3. 地域再生の取組を進めようとする期間

計画認定のあった日から平成 17 年 3 月 31 日まで

4. 地域再生計画の意義及び目標

今からおよそ 1200 年前、時の桓武天皇が造営した 10 年限りの都、長岡京が位置する本市は、きりしまつつじで著名な長岡天満宮や弘法大使ゆかりの乙訓寺等が存する、京都西山連山に抱かれた歴史と文化の香りが漂う都市である。また、多彩で魅力的な歴史・伝統・文化や、豊かな風土に育まれた様々な資源があるため、近年では市外から多くの人々が集い、交流し、賑わいをもった街となりつつある。

本市では、平成 4 年に修復された勝竜寺城公園をメイン会場として、当時の竹下内閣が打ち出した「ふるさと創生事業構想」を具体化した「長岡京ガラシャ祭」を創設し現在に至っている。祭の実施主体は、自治会を含む 108 の各種団体に組織する実行委員会であり、地元企業や市民の協賛金と市補助金を財源に運営を行なっている。活動の主体は、市内各団体のボランティア、NPO 等で成り立っており、毎年内容の充実を図りながら回を重ね、本年度で第 13 回目を迎えることとなった。昨年には祭全体で約 45,000 人の人出があり、市の大きなイベントのひとつとして定着しつつある。

このように毎年多くの市民が、感動を持って祭の運営に取組めることは、住民自治推進の観点からみて、大変意義深いものと考えられることから、これらの取組をさらに拡大し、文化・芸術を介した地域間交流の更なる活性化と観光客の増加を目標とし、当該地域再生計画を申請するものである。

そのための方策として、以下の取組を実施していく。

第一に、「ガラシャオペラ」の内容を拡充し、よりレベルの高い舞台の上演を目指す。「ガラシャオペラ」は平成 14 年の市制施行 30 周年を記念した市民公募イベントに応募されたものである。ガラシャ祭の前夜祭に、本市にゆかりの深い「細川ガラシャ夫人」をメインテーマにした市民手作りによるオペラを上演するものであり、ガラシャ祭実行委員会と市が費用を支援することで第 1 幕の上演が行なわれた。平成 15 年度には第 2 幕と第 3 幕が上演され、本市での本格的な市民参加型の文化芸術イベントの成功に、市民ホールは感動と賞賛の拍手に沸き立った。

本年度は、全3幕の最終編が完成する年となり、前年までの盛況を踏まえて文化ホール(定員1,000人)で2回の上演が計画されている。戦国時代を力強く生き抜いたガラシャの姿を描いたオペラが、市民の手により自主的に創作され、さらに市民合唱団体や公募市民により全幕を大舞台で毎年上演されることは、郷土の文化的レベルの高揚に資するところが少なくない。よって今般、この「ガラシャオペラ」をよりレベルの高い内容とし、市民自らが企画した全国に誇る新しい伝統行事として、一層の定着を目指すため、「文化芸術による創造のまち支援事業(10803)」支援措置を申請するものである。

第二に、文化交流活動の新たな拠点として「地域交流センター」を整備する。当該施設は、長岡京駅西口地区市街地再開発事業の中で国の「まちづくり総合支援事業」の補助を受けたもので、平成16年度中の完成を目指しており、具体的には「中央生涯学習センター」や「観光案内所」の設置事業などをおこなうものである。

その他の取組として、郷土の歴史文化に対する知識等の一層の周知を図るため有識者を招いた「市民公開講座」や、史実をより深く考察するため、研究者等の参画を得た「シンポジウム」の開催を計画している。また、オペラの満場と祭の成功へ向けて、全市民が一丸となる機運づくりのきっかけとなる「市民手づくりワークショップ」等の運営を予定している。

これらの取組を有機的に結合させながら持続・発展させることにより、文化・芸術を介した地域間交流の更なる活性化と観光客の増加が達成されるものと考えている。

5. 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

今回の支援措置を得て、オペラ、演劇、歌唱指導者等の招聘を充実させ、さらにレベルの高い講演をおこなうことにより、ガラシャオペラについては、昨年の観客数1,000人から30%の増加を、「長岡京ガラシャ祭」の人出については約45,000人から20%の増加を見込んでいる。地域間の交流が促進されると、さらなる観光客の増加に帰結するものと考えられる。

また、「地域交流センター」でのカルチャー教室やミニコンサート、フォーラムの企画といった市民の自主的な活動と、市の支援による「市民公開講座」や「シンポジウム」の開催等を通じて、人々の文化・芸術への関心を高め、地域の知的・文化レベルを向上させることが期待できる。

6. 講じようとする支援措置の番号及び名称

10803 文化芸術による創造のまち支援事業

7. 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他関連する事業

シンポジウム「細川ガラシャと勝竜寺城」(仮題)

市民公開講座(全6回)

市民手作りワークショップ(全10回)

地域交流センター建設事業
観光案内所設置事業

8. その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
なし

別紙

1. 支援措置の番号及び名称

10803 文化芸術による創造のまち支援事業

2. 支援措置を受けようとする者

オペラ「細川ガラシャ物語」制作委員会

代表 井上 英之(大阪音楽大学教授)

3. 当該支援措置を受けて実施し、またはその実施を促進しようとする取組の内容

平成4年、長岡京市のふるさと創生事業として始まった「長岡京ガラシャ祭」は、自治会を含む108の各種団体で組織する実行委員会を実施主体として、地元企業や市民の協賛金と市補助金を財源に運営を行なっている。昨年には祭全体で約45,000人の人出を数え、市民自らが創る全国に誇る新しい伝統行事として定着しつつある。

今回申請に関わる「ガラシャオペラ」は、「長岡京ガラシャ祭」において、当時修復されたばかりの勝竜寺城公園を舞台に、この城にゆかりの深い「細川ガラシャ夫人」をメインテーマにしたオペラを上演したいという市民の願いが基になっており、平成14年の市制施行30周年を記念した市民公募イベントとして応募されたものである。内容は、市民手作りによるオペラをガラシャ祭前夜祭に上演するもので、初回はガラシャ祭実行委員会が費用を支援することで第1幕の上演が行なわれた。平成15年度には第2幕と第3幕が上演され、会場の市民ホールは新たな郷土の文化・芸術イベントを賞賛する市民であふれるほどの盛況であった。本年度は、全3幕の最終偏が完成する年となり、前年の盛況を踏まえて文化ホール(定員1,000人)で2回の上演を計画している。

今回の支援措置を得て、オペラ、演劇、歌唱指導者等の招聘を充実させることにより、さらにレベルの高い公演とすることを目指すものである。戦国時代を力強く生き抜いた、本市ゆかりの細川ガラシャの姿を描いたオペラが、市民の手により自主的に創作され、さらに市民合唱団体や公募市民の参加を得た全幕が大舞台上演されることは、地域全体の文化レベルの高揚に資するものであり、当該措置の支援が、郷土の文化芸術イベント運営に対する市民参加を促進し、ひいては文化・芸術を介した地域間交流の更なる活性化に結びつくものと考えらる。

・ 取組に関与する主体

オペラ「細川ガラシャ物語」制作委員会

代表者 井上 英之

・ 取組が行なわれる場所

オペラ上演 市民ホール、勝竜寺城公園(京都府長岡京市勝竜寺)他

その他の取組 市内一円

- ・ 取組の実施期間

認定のあった日から平成 17 年 3 月 31 日

- ・ 事業の内容

オペラ「細川ガラシャ物語」上演に向けた取組

制作委員会(6~8回)

脚本部会(3~4回)

合唱団指導(長岡京市民合唱団、長岡京少年少女合唱団)